

第20回 山梨県介護老人保健施設大会抄録用紙

演 題	多職種による評価に基づいた薬剤の検討
副 題	2つのガイドラインに沿ったポリファーマシー対策

フリガナ	トケイヨウホウジンナンザンカクイロウジンホケンセンター
施 設 名	特定医療法人南山会峡西老人保健センター
フリガナ	ヤクザイシ・フジハラエミ
発表者(職名・氏名)	薬剤師・藤原恵美
フリガナ	ナカジマチサト、ホサカアコ、ナイトウゼンノスケ
共同研究者	中畠千里、保坂亜子、内藤全之輔

<目的>

老年医学会において高齢者における HbA1C、血圧のガイドラインが提唱された。現在、高齢者の医療における問題としてポリファーマシーへの関心が高まっている。今回老健施設において、ガイドラインに沿って医師とともに薬剤の整理を試みた。同時に看護師・作業療法士・栄養士と協働し、食事量、ADL 等の改善の有無について検証を行った。

<方法>

峡西老人保健センター1階一般棟(41名)、2階認知症棟(39名)において、血圧、HbA1C 値を調査した。血圧については基準値以下のうち各階3~4名(1階4名、2階3名)を対象とした。複数服用している場合降圧効果の低い薬剤から中止、1剤の場合は半量に減量し、対象者は薬剤変更日より1ヶ月間毎日午前10時に血圧測定を実施することを看護師サイドに依頼した。また HbA1C については、基準値以下で糖尿病治療薬を服用している方6名(1階4名、2階2名)を対象とした。糖尿病治療薬を中止し、変更開始日より3ヶ月間、月に1回血液検査で検証することとした。栄養士、作業療法士については、対象者の食事量、意思の疎通、ADL 等を評価してもらい、処方検討の結果を評価することとした。

<結果>

- ① 血圧について対象者7名中5名については大きな変化、上昇はみられずほぼ降圧目標値以下であった。残りの2名について1名は目標値(140/90)より上昇することが1ヶ月のうち11日あった。その後の経過は6月7月ともに目標値以下であった。もう1名は糖尿病の既往があるため目標値が130/80であり、目標値を越す日(5日)もあったが、ほぼ目標値内であった。その後の経過は目標値を上回る月と下回る月とがあった。医師に相談し2名ともこのまま様子を見ていくことになった。
- ② 血糖(HbA1C)については1階の4名はHbA1C 値の上昇がみられた。うち3名はコントロール目標値より低い値であった。残りの1名は目標値を上回り、SU 剤が再開となった。2階の2名はHbA1C

の上昇は見られなかった。

- ③ 食事量については大きな変化がなく、ほとんどの人の摂取量がほぼ100%であった。好き嫌いによる摂取量のむら、介助摂取による摂取量増加があった。
- ④ ADL について1階、2階ともに変化は見られなかった。

<まとめ>

今回2つのガイドラインに従って医師とともに薬剤の整理を試み、多職種で評価を行った。ほとんどの方で大きな悪化や変化は見られなかった。今後も定期的にしつかりフォローしていき、個々に薬剤調整が必要である方については、医師に相談し検討していく。この方法で検討を進めていき、処方検討をマニュアル化していく予定である。